

<実践事例>

4 学部協働プログラムのコンテンツ向上のための GSC 学生リーダー会の取組

木村 成美¹・伊木 貴子²

2014年度に開設されたグローバル・サイエンス・コースは、京都産業大学の理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部の理系3学部と、外国語学部の協働による理系産業人育成の教育プログラムである。本稿では、コースの概要に触れるとともに、2016年度から始まった有志の学生組織「GSC 学生リーダー会」の活動を紹介します。コースの改善のためのこれまでの活動を報告する。

キーワード：学部協働、グローバル・サイエンス・コース、学生リーダー、コース改善

1. はじめに

グローバル・サイエンス・コース（以下、GSC）は、京都産業大学の理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部の理系3学部と外国語学部の協働により、グローバルな社会で活躍できる理系人を育成するグローバル人材育成のプログラムである。2012年度に「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に採択され、2014年度秋にコースを開設した。GSCに登録された学生は、通常の学部のカリキュラムで専門性を身につけ、日本の文化・歴史を学ぶ科目でアイデンティティを確立し、外国語学部の英語プログラムである特別英語科目を履修することで英語力を含む対話能力を醸成し、プログラム全体を通して主体性・積極性を身につける。選考は、毎年6月頃に行われ、理系3学部からそれぞれ約20名が登録されている。

本稿では、GSCの学生組織「GSC 学生リーダー会」の活動紹介を通じ、グローバル人材育成プログラムのコンテンツが学生の視点でどう改善されたかを紹介します。また、今後のGSC 学生リーダー会の活動の展望にも焦点をあて、学生と教員がGSCを通じどう関わりコンテンツの改善を図っていきたいかを報告する。

2. GSC 学生リーダー会

平成28年3月、GSCの有志により「GSC 学生リーダー会（以下、リーダー会）」が組織された。

リーダーの選出は立候補制で、全GSC生から承認を得る形で発足した。リーダー会は、GSC全体を学生の目線からより良いものにするために活動している。役職は、全体を統括するリーダーと各学部の代表となる副リーダー、GSCのイベント内容を検討するイベントリーダーの3つである。メンバーは3年次生7名、2年次生6名の13名で構成されている（2017年11月現在）。また、進級により中心的な役割からは離れた4年次生のアドバイザーが若干名いる。

リーダー会では、ほぼ毎月1回、GSC担当職員と「GSC 学生リーダー会議」を開き、今後のGSCの月次イベントの企画だけでなく、週次勉強会の問題点と改善策について話し合っている。また、GSCの課題についても学生の視点から議論し、時には新たな試みも提案している。会議で話し合われた内容は、職員から各学部のGSC担当教員に伝わり、勉強会の運営・実施に役立てられている。

3. GSCの月次・週次の取組

GSCには、3学部共通の月次勉強会「Monthly GSC」と、月次茶話会「Global Saloon」の2つがある。Monthly GSCは、理系産業人としての社会に出る意識を高めるための勉強会である。主に、大学教員の留学経験や海外での学会発表の体験談を聞き、また、卒業生や大学院生を講師として招き身近な先輩がグローバルに活躍する姿を知ることによって、グローバルマインドを醸成する。Global Saloonは、欧州で行われる交流会のようなもの

¹ 京都産業大学 理学部3年次、² 京都産業大学 教育支援研究開発センター

で、英語を話しながら GSC の学生同士の友好を深められる茶話会である。主に、GSC の学生の留学経験の報告や、留学生との交流、英語でのフリートークを行っている。リーダー会は、Global Saloon において会場準備や司会だけでなくアイスブレイクの役割も担っており、Monthly GSC よりも企画・運営部分に直接的に関与している。

また、英語などの向上のため、リーダー会が中心となり GSC+ という週次の自主勉強会を開催している。GSC+ は、週に 4 回、12:40~13:00 の 20 分間で行われており、昼食をとりながら学習できるようにしている。GSC+ の特徴は、準備も運営もリーダー会のメンバー、つまり学生が担っているという点である。それまでは GSC 担当の教職員が運営していたが、リーダー会の発足に伴い、学生中心の企画・運営にシフトしていった（伊木 2017）。

勉強会の内容は曜日ごとに異なっており、4 種類の勉強会を開いている。月曜日は、洋画を字幕を付けながら、毎週少しずつ観賞する「Movie+」である。その映画に出てくる人気のフレーズや普段の生活で使えるようなフレーズに注目しながら、担当者が解説する。火曜日は、ワードウルフというゲームを英語で行う「Game+」である。くじを引き、1 人だけ違う言葉を引いた学生を英会話の内容から当てるゲームである。比較的簡単な言葉を出題しているため、英語が苦手な人でも話しやすく、英会話を練習するには適していると言える。木曜日は、日本の伝統や文化を学ぶ「Japanese Culture」である。外国人に日本の文化を聞かれても答えられるように、日本人として知っているべき日本の伝統や文化を学んでいる。金曜日は、毎週少しずつ TOEIC の勉強会をする「こうき・ただのといっく教室」である。あえて英語の苦手なメンバーが担当者になり、答え合わせの時に参加者が先生役となり担当者に教える形式にしている。お互いに教え合い、学び取ることで英語力を伸ばす勉強会であり、スコアが 200 点以上伸びた学生もいる。

4. リーダー会による新しい試み

Global Saloon では、平成 28 年度までは、留学生の体験談の報告が多くの内容を占めていた。しかし、「ゲストは異なるとはいえ、いつも同じような企画である」という声が GSC 生から挙がった。そこで、GSC 学生リーダー会議で議論し、平成 29 年度から新たな企画の検討に入った。あわせて、GSC の勉強会や茶話会に出席する生徒が減って

いたため、魅力的な内容や面白い企画を求めて議論を重ね、いくつか新しい試みを実現させた。

4.1. 特別授業の実現

一つ目の試みは、外国語学部の教員による特別授業である。桜井延子外国語学部准教授に依頼し、茶話会の中で英会話のレッスンを実施した。桜井准教授は、GSC の必修科目であり最初の集まりである「特別英語（英語サマーキャンプ）」で平成 26 年度から 4 年間担当教員を務めている。必修科目の担当教員であることから、GSC の学生のほとんどは桜井准教授を良く知っており、学生からの人気も高い。平成 29 年 5 月の Global Saloon で、特別授業が実現し、英語のリアクションについて学習した。

当日は、はじめに定番のリアクションについて学んだあと、ペアを作り、簡単な絵本を用いてリアクションの練習をした。その後の英語のフリートークは、リアクションを使って会話をした。会話にリアクションがあることによって、会話がはずみ、聞くことも話すことも楽しくなることを実感できた。参加者の中には GSC の月例勉強会にしばらく参加していなかった学生もあり、呼び戻す 1 つのきっかけを果たしたと言える。

4.2. 留学生と GSC 生の繋がり形成

二つ目は、外国人留学生の寮のロビーにて茶話会を実施したことである。これまでは、学内の多言語学習空間「グローバルコモンズ」で談話会をしてきたが、より多くの留学生に参加してもらうための方策を検討した。その結果、少しでも多くの外国人留学生が参加できるよう、外国人留学生の寮でイベントを実施することを発案し、GSC 担当の教職員に提案した。目的が明確だったこともあり、平成 29 年 4 月の年度初めの時期に開催を実現させることができた。また、開催場所が、寮の入り口の目の前であったため、寮に帰ってきた留学生が立ち寄ることもあり、普段よりもたくさんの外国人留学生が集まった。

本企画の目的は、外国人留学生との交流を深めつつ、英語を話す練習をすることであった。留学生は、日本語を学びに来ているため、使用言語を英語と日本語の二か国語にして、留学生にとっても学びのある時間にするようにした。お互いに初対面である場合がほとんどのため、受付の時にグループ分けのカードを配り、はじめはグループで話し、途中でグループを変えて話す形式にした。終了時刻になっても帰らない学生がいるなど、イベントは大いに盛り上がった。

このイベントの開催により、外国人留学生の友人ができたり、英語をより上手に話したいという学習意欲の向上につながった GSC の学生がいた。また、普段の英語学習の成果を実践する場になった学生もいた。

4.3. 他団体との合同イベント

三つ目は、GSC の学生が多く所属している神山天文台サポートチームとの合同イベントの実施である。

神山天文台サポートチーム（以下、サポートチーム）は、京都産業大学の学生団体であり、大学の施設である神山天文台をもっと身近に感じてもらうため、毎週土曜日の天体観望会開催や、天文や科学について、興味をもってもらうためのイベントの開催などをしており、学内外を対象に様々なイベントを開催している（京都産業大学 2015）。

神山天文台には、外国人留学生も来るため、英語での対応についての検討が懸念事項であった。サポートチームにも所属しているリーダー会のメンバーが合同イベントの開催を持ちかけたところ、英語を話したいという共通の意識があったことから、合同イベントの開催に至った。

企画の内容や開催時期については、リーダー会、サポートチームの双方で検討を重ねた。多くの学生が参加できるよう、教職員に授業の少ない時限や留学生対象のイベント開催日でない日程の調査を依頼し、集客数が見込める日時での開催を決定した。内容は、神山天文台の主要な設備の 1 つである荒木望遠鏡の解説と見学会、実際の天体をパソコンで閲覧できる Mitaka というソフトを使った 3D 上映、学生リーダーが得意なことや好きなことを英語で話す発表会の 3 つを企画し、それらを回るツアー形式にした。

GSC 生にとっては初めての他団体との合同企画であったが、合同イベントをゼロから企画・運営することの難しさをリーダー会が痛感したイベントとなった。例えば、想定よりも準備に時間がかかり、学生から大学側に許可を求めることが多く、戸惑ってしまったことが挙げられる。開催して良かった点は、理系 3 学部以外の参加者がおり、その参加者に GSC と神山天文台について広報できたこと、イベントが楽しかったという感想があったことである。

その一方で、改善点もあった。広報する時期が遅くなってしまったこと、開催場所の雰囲気があまり良くなかったこと、定期試験が近い時期にイベントを開催したため参加学生が増えなかったことである。イベントは、企画・開催するだけでは

不十分で、参加者がいて初めてイベントになることを学生リーダー会が感じた企画であった。しかし、リーダー会にとっては、GSC をもっとより良いものにしていきたいという気持ちが高まったイベントになり、積極的な発言や行動が増えるきっかけになったと考えられる。

5. まとめ

GSC 学生リーダー会では、これまで主に GSC 担当職員を通じて GSC に関する改善案や新たな提案を GSC 担当教員にしてきたが、今後は教員へ直接要望を伝えることも必要であると感じている。直接自分たちの声を届けるため、平成 29 年 11 月 24 日に初めて GSC 担当教員との意見交換会を行った。その中で、リーダーとして GSC の学生の生の声や、これまでの企画についての意見・感想、今後の要望などを伝えることができた。また、GSC 担当教員と対等に意見交換ができたので、教員と学生の距離も縮まったように思われる。

GSC は、平成 30 年度で発足から 5 年目を迎える。今後も、GSC 学生リーダー会として、GSC に関する要望を学生の目線で考え、GSC の改善・発展に寄与する。

謝辞

本稿作成にあたり、GSC 学生リーダー会のメンバー、桜井延子准教授をはじめ GSC や神山天文台の関係教職員、GSC 生、神山天文台サポートチームの皆様に感謝いたします。

参考文献

- 伊木貴子 (2016) グローバル・サイエンス・コースの週次勉強会における学生の主体的な学び. 高等教育フォーラム 7: pp.103-108
 京都産業大学 (2015) 神山天文台施設・概要. <https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/index.html#menu-about> (参照 2017.12.15)

Global Science Course (GSC) Student Leaders Board's Activities to Improve Inter- Faculty Education Program

Narumi KIMURA¹, Takako IGI²

Global Science Course (GSC) is an educational program among three science faculties, Faculty of Science, Faculty of Computer Science and Engineering, and Faculty of Life Sciences of Kyoto Sangyo University. With the collaboration of the Faculty of Foreign Studies, the Course started in 2014, aiming to foster global science leaders. This article summarizes the contents of the GSC and reports the activities of the GSC Student Leaders (or Student Leadership) Board, and introduce the leaders' contribution to the improvement of the GSC.

KEYWORDS: Inter-Faculty Collaboration, Global Science Course, Student Leadership, Student Engagement, Faculty Development

2018年1月12日受理

1 Third-year Student, Faculty of Science, Kyoto Sangyo University

2 Center for Research and Development for Educational Support, Kyoto Sangyo University